

共用品推進機構だより 2016年02月05日(40)

目次

(184) 共用品推進機構関連記事

- ▽「全国パーキンソン病友の会 共用品と当事者団体② より多くの人が使えるモノ・サービス／星川安之」
- ▽「《AD シンポジウム 2016 『アクセシブル社会の実現を目指して～研究事例・実践事例・広報の視点から～』》開催のお知らせ」

(185) 賛助会員ニュース

- ▽「公共トイレ向け便器 壁掛け式掃除しやすく／LIXIL」

(186) 各種催しとお知らせ

- ▽「《ユニバーサルツーリズムシンポジウム『障害者差別解消法で広がる世界』～もっと旅行を楽しむためのユニバーサルモビリティ・アシスト機器～》開催のお知らせ」

(187) 製品関連記事

- ▽「体温計、スマホに送信可／ウィジングズ (Withings)」
- ▽「フィルム切りにも便利／オークス」

(188) 新刊紹介

- ▽『発達障害の子をサポートする学習・生活支援事例集 小学校』
 - ▽『うちの子は育てにくい子 発達障害の息子と私が学んだ大切なこと』
 - ▽『特別支援教育時代の体育・スポーツ 動きを引き出す教材 80』
 - ▽『キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援 福祉・労働制度・脳科学的アプローチ』
-

(184) 共用品推進機構関連記事

▼「全国パーキンソン病友の会 共用品と当事者団体② より多くの人が使えるモノ・サービス／星川安之」

障害のある人達が会員となって組織されている団体が数多くあります。今回は一般社団法人「全国パーキンソン病友の会」を紹介させていただきます。

一般社団法人全国パーキンソン病友の会は、1976年に結成されました。会報によると、病気の原因はいまだにわからず治療法も確立していません。

症状としては、4大運動症状として振戦、筋肉の固縮、無動、姿勢保持障害があげられます。

パーキンソン病の人たちが感じている「不便さ」や「良かったこと」を知ること、使いやすい製品やサービスを作り、提供するための出発点となります。その出発点となる2種類の報告書をご紹介します。

一つめは、「グラフで見るパーキンソン病患者の実態調査報告書」。30周年事業として同会が発行したもので、会員に対して実施されたアンケート調査をもとにまとめられています。

二つめの調査は、「良かったこと調査」です。これは同会が共用品推進機構との共同で実施したもので、施設やサービスを利用した際の「良かったこと」をアンケート調査によって確認するものです。

「不便さ」、「便利さ」が、多くの関係者に共有され、全ての人が暮らしやすい社会に一日でも早く近づけることを、共用品・共用サービスを普及する立場で、連携して実行していきたいと強く思った次第です。

(福祉介護テクノプラス 2015年11月号より抜粋)

▼「《AD シンポジウム 2016『アクセシブル社会の実現を目指して～研究事例・実践事例・広報の視点から～』》開催のお知らせ」

異なる業界団体が集まり、アクセシブルデザイン(AD)・福祉用具関連の調査、開発、標準化、普及、国際化等の事業について情報共有を行っているアクセシブルデザイン推進協議会では、毎年社会情勢に合わせテーマを決め、シンポジウムを行っています。

今年度は、ADや福祉用具に関連する大学の研究を初め、国内外の包装(容器)の事例やアクセシブルな広報の仕方について考えるシンポジウムを開催いたします。

日時：平成 28 年 2 月 23 日（火）14:00～17:00（受付：13:30～）
場所：YMCA アジア青少年センター（在日本韓国 YMCA） 地下 1 階
スペース Y 文化センター（ホール）
東京都千代田区猿樂町 2-5-5

<http://www.ymcajapan.org/ayc/hotel/jp/access-access.html>

プログラム：

【開会・本日の趣旨説明】

【基調講演】

「当事者研究が切り開く、知識と技術のバリアフリー」

熊谷 晋一郎氏：東京大学先端科学技術研究センター 准教授

【講演 1】

「包装（容器）における世界のアクセシブルデザイン事例」

住本充弘氏：公益社団法人日本包装技術協会 技術参与

（住本技術士事務所所長）

【休憩】

【講演 2】

「効率的でアクセシブルな広報とは」

鹿野由利子氏：千葉大学 特任准教授（医学部附属病院 広報戦略担当）

／PR ディレクター

【AD 最新報告】

最新のアクセシブルデザイン情報報告

星川安之：アクセシブルデザイン推進協議会事務局

（共用品推進機構専務理事）

【まとめ・閉会】

* 講演のタイトルは当日変更になることがあります。予めご了承ください。

参加費：1000 円（当日受付にてお支払いください。

領収証は当日お渡しします。）

参加予定人数：150 名（×切は平成 28 年 2 月 16 日（火）ですが、

定員になり次第締め切らせて頂きます。）

* 当日の情報保障として手話通訳を予定しております。

主催：アクセシブルデザイン推進協議会（ADC）

（一般財団法人家電製品協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、

公益財団法人テクノエイド協会、一般社団法人日本ガス石油機器工業会、

一般財団法人日本規格協会、日本福祉用具・生活支援用具協会、

公益社団法人日本包装技術協会、公益財団法人共用品推進機構)

申し込み・お問い合わせ

ADC 事務局 (公益財団法人共用品推進機構内) 星川・森川

電話 : 03-5280-0020 FAX : 03-5280-2373

E-mail : hoshikawa@kyoyohin.org / morikawa@kyoyohin.org

(185) 賛助会員ニュース

▼「公共トイレ向け便器 壁掛け式掃除しやすく／LIXIL」

LIXILは28日、ビルや公共施設など向けのトイレ「NEW PUBLIC TOILET HL」として、壁掛け式便器とセンサー一体型小便器を2月1日に発売すると発表した。公共施設の設備として、多くの人にとって使いやすいデザインと機能を追求した。

壁掛け式便器は凹凸のないデザイン。床置き式と異なり、床と接していない。このため、モップなどでの掃除がしやすい。車椅子でも近づきやすい形にした。

小便器は、水を流すために人の動きを感知するセンサー部分に、新開発の超音波センサーを搭載。従来の赤外線センサー窓をなくし、デザインをすっきりさせた。

便器が建物に接する部分は、床や壁と調和するよう無駄な要素を排除したデザインとした。

(日経産業新聞 1月29日21面より抜粋)

(186) 各種催しとお知らせ

▼「《ユニバーサルツーリズムシンポジウム『障害者差別解消法で広がる世界』
～もっと旅行を楽しむためのユニバーサルモビリティ・アシスト機器～》
開催のお知らせ」

「障害者差別解消法」により変わる旅行市場からのトレンドを探るとともに、

誰でもが積極的に外に出て楽しむことができるよう、ハード、ソフト両面において、どのような環境整備が必要なのか、新しいモビリティやアシスト機器の活用なども含めた議論をしていきます。

日時：2016年2月23日(火) 13:00~17:00 (受付開始 12:00)

会場：新横浜 横浜市障害者スポーツセンター・ラポール

参加費：無料 (定員:300名)

申込方法：下記ホームページより申込み

*参加証は受付後にメールにて返信。

<https://questant.jp/q/KAJ905QA>

申込締切：2月10日(水)

問い合わせ

株式会社 JTB 総合研究所 コンサルティング 2 部

ユニバーサルツーリズム推進チーム (梅原裕子・野下美香)

TEL：03-3525-4528 (10:00-17:00)

E-mail: ut_chousa@tourism.jp

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-6-2 上野ビルディング 8F

<http://www.tourism.jp/press-release/2016/01/universal-tourism-symposium/>

(187) 製品関連記事

▼「体温計、スマホに送信可／ウィジングズ (Withings)」

活動量計などを手掛ける仏ウィジングズ (Withings) は、体温を正確にすばやく測れる無線 LAN 接続型の体温計「ウィジングズ・サーモ (Withings Thermo)」を 2016 年第 1 四半期にも米国で発売する。皮膚の表面から放射される赤外線熱量を測定し、気温などによるデータの偏りを補正、体温を算出する。操作はこめかみの上にそっと置きボタンをクリックするだけ。

2 分間に 4000 回の測定を行う。計測値は無線 LAN などで自動的にスマートフォン (スマホ) に送信できる。計測が完了すると振動で知らせ、平熱なら「緑」、高めなら「オレンジ」、高熱なら「赤」に色を変化させて発光ダイオード (LED) で表示する仕組み。単 4 電池 2 本で駆動し、電池寿命は最長で約 2 年。

(日経産業新聞 海外ニューフェース 01月29日23面より抜粋)

▼「フィルム切りにも便利／オークス」

「レイエ サッと開封キッチンカッター」。開けにくい食材の包装をサッと開封できる便利グッズ。刃物産地の新潟県・燕三条製の切れ味のよい三角刃で、刃先がしっかり刺さり、軽い力で切ることができる。刃先が小さく、生鮮野菜のテープも、野菜を傷付けずにカットできる。豆腐パックや瓶のフィルムを切るのにも便利。

(日経MJ 2月3日13面より抜粋)

(188) 新刊紹介

▼『発達障害の子をサポートする学習・生活支援事例集 小学校』

小学校低学年、中学年、高学年の発達障害のある子どもたちが学習や学校生活でつまづきやすいポイントを取り上げ、サポート例を紹介。校内体制、外部機関との連携、個別の指導計画などについても解説する。

監修：腰川一恵（こしかわ・かずえ）

発行：池田書店

本体価格：1650円（税別）

ISBN：978-4-262-15477-0

▼『うちの子は育てにくい子 発達障害の息子と私が学んだ大切なこと』

自閉症スペクトラムの小1男子のママが、生後から現在までの葛藤の日々と、実体験を通して学んだ、親子が笑顔でいられる習慣や暮らしの工夫を伝えるエッセイ。すべてのママにすぐに役立つヒントが満載。

文・絵：アマミモヨリ

発行：KADOKAWA

本体価格：1100円（税別）

ISBN：978-4-04-068068-2

▼『特別支援教育時代の体育・スポーツ 動きを引き出す教材 80』

特別支援教育の理念と基本的な考え方にに基づき、一人一人のニーズに応じた体育指導を実践するために、体育・スポーツという視点から配慮や工夫、指導上の留意点を解説。卒業後のスポーツライフの継続に向けた試みも取り上げる。

編：後藤邦夫（ごとう・くにお）

発行：大修館書店

本体価格：2300 円（税別）

ISBN：978-4-469-26786-0

▼『キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/
特別支援教育/就労支援 福祉・労働制度・脳科学的アプローチ』

日本発達障害学会設立 50 周年を機に、研究者や実践家による成果をまとめる。日本の発達障害をめぐる学術研究の歴史をふまえたうえで、医学・福祉・教育・労働の多領域にわたる最新のトピック、エフォート、アジェンダを紹介。

監修：日本発達障害学会

編集：日本発達障害学会 50 周年記念事業編集委員会

発行：福村出版

本体価格：2800 円（税別）

（編集後記）

昨年 12 月に ISO（国際標準化機構）から国際規格として発行された ISO 19026 「公共トイレの壁面の洗浄ボタン、呼出しボタンの形状及び色並びに紙巻器を含む配置」に続き、先月 1 月に ISO 19027 「絵記号を使用したコミュニケーション支援用ボードのためのデザイン原則」、2 月 1 日に ISO 19029 「公共施設における聴覚的誘導信号」が発行されました。

これらの規格は 2013 年 3 月に提案した規格式案で 33～35 ヶ月をかけて発行に至りました。これらの規格と同時期に提出した「触知案内図」は ISO 19028 「触知案内図の情報内容及び形状並びに表示方法」として本年 3 月までに発行される予定です。この発行により TC173（福祉用具専門委員会）/SC7（アクセシブルデザイン分科委員会）から提案した規格式案 6 つが全て発行されることとなります。（松岡 光一）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>